

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 26 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2014

課題番号：22520200

研究課題名(和文) 水戸藩と九州諸藩を中心とした近世前期における知識人の交流と出版文化の研究

研究課題名(英文) A Study on Men of Letters' Exchanges and Publication Culture in the Mito clan and some clans in Kyushu

研究代表者

倉員 正江(長谷川正江)(KURAKAZU(HASEGAWA), Masae)

日本大学・生物資源科学部・教授

研究者番号：70307817

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)： 明の朱舜水が日本で伝授した儒教儀礼が水戸藩の彰考館や柳河藩関係者らに及ぼした影響を与えたかを、祭祀を中心に明らかにした。この成果を臺灣大学のシンポジウムで発表し、単行本化された。

九州地方の戦国時代を扱った軍書『西国盛衰記』、『九州諸将軍記』の諸本調査から板木の修訂過程を明らかにし、軍書の刊行と出版規制につき考察した。後者が許蘭雪軒・李玉峰といった朝鮮女流詩人の作品を取り上げ、蘭雪詩集の和刻本出版のきっかけとなったことを考察し、この成果をソウル大学校のシンポジウムで発表した。

写本『貴言為孝記』の諸本調査から『東照宮御遺訓』の異本が増補される様相と、日本の海防問題が反映している点を考察した。

研究成果の概要(英文)： I proved Confucianism ancestral rites, especially ancestor worship which were taught by Chinese Ming's person Zhu-shunshui for men of letters in the Mito clan and the Yanagawa clan. I released this result in symposium in National Taiwan University. My paper was published in Taiwan. By an investigation all editions of "Saigokuseisuiki" and "Kyushushoshougunki" dealt with wars in Kyushu area, I made an aspect of regulation about publishing in the Edo period clear. Furthermore "Kyushushoshougunki" referred to women poets in Joseon Wangjo such as Heo Nansolheon made her collection of poems published in Japan. I released this result in symposium in Seoul National University. I investigated all manuscripts of "Kigenikouki" and proved that "Kigenikouki" was a different copy of "Toshogugoyuikun" reflected by the matter of Japanese coastal defense.

研究分野：日本近世文学

キーワード：朱舜水 儒教儀礼 近世軍書 西国盛衰記 許蘭雪 九州諸将軍記 東照宮御遺訓 貴言為孝記

1. 研究開始当初の背景

(1)平成18～平成21年度科学研究費補助金による「水戸藩と柳河藩を中心とした近世前期における知識人の交流と出版文化の研究」(課題番号:18520136)を継承・発展させたものである。その時は全249冊の複写物を作成した『大日本史編纂記録(原題「往復書案」)』(京都大学文学部蔵/以下『記録』)を主たる資料としたが、今回もこの蓄積を継承して利用することが前提となっている。また元禄13年(1700)刊『九州記』が、佐賀藩偏重の記述があるとして柳河藩のクレームにより絶版となったことから、近世軍書の板木修訂について諸本を調査する必要性を実感した。

(2)今回は前回・前々回の科研費による研究期間に全冊に目を通した際のメモから、『記録』の概要がかなりの程度まで把握できていたため、研究成果を発表するペースがあがることは見込まれた。さらに拙稿の電子版がインターネット上で公開されたことがきっかけとなり臺灣大學から朱舜水のシンポジウムにパネリストとして招聘されたため、シンポジウムの趣旨に鑑み、応募当初の計画にはなかった儒教儀礼を視野に入れた研究を心掛けた。

2. 研究の目的

(1)近世前期における水戸藩彰考館員と柳河藩儒安東家関係者を中心として、編纂事業や儒教儀礼をめぐる藩儒らによる情報交換・情報伝達のネットワーク形成の具体的諸相を明らかにする。

(2)近世後期の場合と異なり、近世前期の知識人間、特に遠隔地間の交流に関する研究は従来極めて乏しいと言える。その研究の欠落期を『記録』等を利用することで新たに照射することを目的とした。今回は版本のみならず写本の資料を視野に入れて、近世期の史書・軍書を中心とする書物編纂の実態を明らかにする。

3. 研究の方法

(1)『記録』中に記された朱舜水とその祭祀を中心とした儒教儀礼関係個所の読解・翻刻を取捨選択して進める作業を行った。綴じの深い箇所は京都大学古文書室にて原物に当たっている。「茨城県史料」中に活字翻刻がある箇所はそれを利用した。茨城県立歴史館所蔵31冊分の「往復書案」は前半部分が前掲書に翻刻されているが、紙背に記された箇所(1冊)は非常に判読しづらく、翻刻が中絶したまま残されているのが現状である。これは写真やフィルムでは意味を持たず、原物に当たって翻刻を完了した。

(2)次に諸本調査が必要になる。版本では新たに『西国盛衰記』『後太平記』『後太平記評判』、継続して『九州記』『戸次軍談』『九州

諸將軍記』、新たに写本では『東照宮御遺訓』『君臣言行録』『貴言為孝記』等の調査に取り掛かった。

(3)地域としては九州地方の図書館を中心に訪書した。柳川古文書館・九州大学附属図書館・福岡県立図書館・秋月郷土館・熊本大学附属図書館・熊本県立図書館・佐賀県立図書館・島原図書館等が挙げられる。中国地方では山口大学附属図書館・尾道市立図書館・津山郷土博物館に訪書した。国文学研究資料館編「日本古典籍総合目録データベース」に未掲載の資料も少なくなく、閲覧・翻刻作業を進めた。

(4)朱舜水関係資料では、以前私が抄出翻刻した水戸藩士中村良直著『中村雑記』(内閣文庫蔵)の翻刻が大いに役立った。『記録』と相補う記事、また独自の記事も多く、資料価値の高さが改めて証明された。

(5)2011年に東日本大震災が起きて、水戸の彰考館徳川ミュージアムと瑞龍山の水戸家墓所も一部倒壊する被害があった。予期せぬ不幸な出来事ではあったが、倒壊した徳川光圀や舜水の墓所を見学した際、『記録』の記事を読解するにあたって参考となった面が多々あった。またこれをきっかけにミュージアムの事務職員らと面識を得たこと、臺灣の研究者と交流が深まったことで、想定外の情報に接することができた。

(6)『九州諸將軍記』の修訂記事から許蘭雪軒・李玉峰ら朝鮮女流詩人の作品が日本に伝播した様相を追究した。その際韓国・中国・臺灣の研究現状を知るため、また古典籍利用についてインターネットの検索・中国や韓国の公開画像資料が大いに参考となった。

4. 研究成果

今回は9本の論文を発表した。また海外のシンポジウムに3回招聘されたのは、貴重な体験となった。以下論文の発表順に成果とし得る点を記す。

(1)馬場信意作の版本軍書『西国盛衰記』(元禄五年1692序・宝永八年1711刊)について諸本調査した結果、以下の新知見を提示した。

板木の修訂状況から4版に分類できる。『通俗日本全史』翻刻底本は後印修訂本『盛衰記拾遺』である。

の修訂は島津義久の弟歳久が豊臣秀吉との確執から自害した記事を憚った結果である。

本書は『九州記』絶版処分を受けて書肆が信意に執筆を持ちかけた可能性が高い。序年を遡らせたのは、書肆のさかしらであろう。

軍書・史書の執筆・出版をめぐる筆禍事件が複数起きたことが、幕府による享保七年の

出版条目標布を促した。

(2) 臺灣大學でのシンポジウムで、『中村雜記』等水戸藩の記録に見える朱舜水と儒教儀礼につき発表した点を継承し、水戸藩における朱舜水没後の祭祀の具体的な様相について、『記録』を主な資料として考察した。

舜水の没後祠堂を設置し、中国の礼楽を奏するため楽人を招聘したが中断した。専任の祠堂守を任命した。

光圀没後も祭祀は継続したが、祠堂が元禄16年の大火で焼失した。

祠堂の再建は難航したが、安積澹泊の尽力で正徳2年に完成、彼が選任した田代一遊が祠堂守と藩士子弟の教育に従事した。

2代目祠堂守青山一溪の家系から弘道館の教育者を輩出した。

舜水の石碑は元禄8年末か9年初に瑞龍山に完成した。

(3)(2)を継承して徳川光圀の葬祭について『記録』と『日乗上人日記』を主な資料として考察した。

光圀は『家礼』と『儀礼経伝通解』を重要視していた。

光圀が生前寿蔵碑を建立する際「魚帯」の文献上の典拠を追究している。

光圀の葬儀に僧侶の出席は叶わなかったが、瑞龍山が久昌寺と近接することもあり、日乗は光圀の仏事も執り行っている。

光圀の神主と墓石も儒式に則って作製され、幕末まで儒式の「祧廟」が実施された。

(4) 元禄15年刊『戸次軍談』が正徳元年(1711)5月に『九州諸將軍記』と求版改題された際、最終章を削除し、朝鮮女流詩人李玉峰・許蘭雪についての記事が新たに増補されたが、その典拠を考察した。

明・諸葛元声著『両朝平攘録』巻四「日本下」の附録の記事が基になっている。

蘭雪は壬辰倭乱以前に亡くなっており、夫の戦死後も貞節を守ったとする記事内容には誤解があるが、これがかえって中国での好評につながったと見られる。

この新章は正徳元年の朝鮮通信使来朝を見越した処置であり、さらに和刻本『蘭雪軒詩集』の刊行を促したと推測される。

通信使がもたらした朝鮮本が和刻本の底本になったという中国人研究者張伯偉の見解は、推測の域を出ないものの、支持したい。

(5) 作者未詳の八文字屋本『今川一睡記』(正徳三年刊)は複数の時事を錯綜させた浮世草子中の異色作であるが、従来拙稿で指摘した以外にも浮世草子としては特殊な典拠が見出された。

『東照宮御遺訓』附録に見える徳川家光の三人の傳役の逸話を、足利尊氏少年期のことに置き換えている。

『君臣言行録』に見える多武峰にあった藤

原鎌足像の破裂を、弘法大師像の破裂に置き換えている。

『言行録』には『御遺訓』も全文が収められており、こちらを参照した可能性が高い。

幕府の儒官人見家の編纂書『言行録』を、この時期に実見し得る人物は限られており、作者に相応の知識人が想定し得る。

(6) 写本『貴言為孝記』の諸本調査から、以下の点が判明した。

『東照宮御遺訓』の一異本であり、池田家文庫本と近似した内容を持つが、他本も参照されている。

福島正則が改易された記事が増補され、『武経七書直解』に依拠した言説が見られる。

江戸留守居役を批判する増補箇所はカムフラージュもあるが、「越後騒動」で暗躍した中根長左衛門を暗に糾弾している。

(7) 九州大学附属図書館蔵写本『貴言為孝記』の性格を考察した。附録に東京大学駒場図書館蔵「磐尹流沿革書纂」翻刻を付す。

本書は(6)に記した増補箇所はそのままであるが、足利義植を祖とする磐尹流と称する村上水軍一派の伝書と深く関わる新たな増補が見られる。

松永道齋なる実在不明の人物に仮託し、正保四年(1647)のポルトガル使節船、黒船来航に言及して海防の必要性を強調する。

外圧の高まった化政期以降に増補された記事ではないかと推測する。

(8) 柳河藩内二尊寺の住職春龍作の軍書『九州記』の秀吉の朝鮮出兵【文禄・慶長の役】記事に関して、佐賀藩士の著作を参照している点を指摘した。

鍋島種世著『普聞集』、犬塚盛純著『歴代鎮西志』の両書を参照しなくては執筆できない内容や資料を『九州記』が有している。

『九州記』に異本(写本)が存在した可能性がある。

荘厳な朝鮮王城が荒廃する様子を詠嘆調で描く描写は、佐賀藩内の泰長院住職で朝鮮に従軍した是琢明琳の日記が原拠である。

春龍と佐賀藩士の接点については未詳だが、臨濟宗寺院が介在した可能性がある。

(9)〔図書〕 分担執筆箇所であるが、仮名草子の代表的作品で浅井了意作『伽婢子』が後続作に与えた影響関係について考察した。

『伽婢子』巻8の4「幽霊出て僧にまみゆ」を基に『後太平記評判』巻33の5「隅屋藤四郎亡魂事」が執筆された。これは『後太平記』にはない記述を増補した章である。

『評判』所収話がさらに『続太平記狸首編』巻24の5に影響を与えた。

『評判』所収話が井原西鶴作『好色五人女』巻5冒頭にも影響した可能性が高い。

『伽婢子』巻8の5が『評判』巻33の7評・伝に影響を与えた。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

倉員 正江、『九州記』掲載朝鮮出兵記事の典拠をめぐる一考察 『歴代鎮西志』『普聞集』との関係を中心に、人間科学研究、11号、2015、105-128、査読有

倉員 正江、『貴言為孝記』に見る『東照宮御遺訓』の顛化 福島正則改易と越後騒動を中心に、語文、148輯、2014、16-27、査読有

倉員 正江、九州大学附属図書館蔵『貴言為孝記』にみる海防意識について 磐尹流伝書との関わりを中心に、人間科学研究、11号、2014、197-212、査読有

倉員 正江、『今川一睡記』の典拠再考 『東照宮御遺訓』『君臣言行録』の影響をめぐって、人間科学研究、10号、2013、228-268、査読有

倉員 正江、『九州諸将軍記』掲載李玉峰・許蘭雪記事についての一考察 『兩朝平攘録』に記録された朝鮮女流詩人、近世文芸研究と評論、82号、2012、17-31、査読有

倉員 正江、水戸藩における葬祭儀礼についての一考察 徳川光圀の葬祭・廟制を中心に、人間科学研究、9号、2012、271-287、査読有

倉員 正江、朱舜水没後の祠堂・石碑造営をめぐって 水戸藩における舜水祭祀についての覚書、人間科学研究、8号、2011、261-276、査読有

倉員 正江、軍書『西国盛衰記』の板木修訂に見る出版規制意識 島津歳久自害記事をめぐって、かがみ、41号、2011、53-79、査読無

[学会発表](計5件)

倉員 正江、1763年刊『朝鮮年代記』に見る朝鮮像 少年向け草紙に描かれた壬辰戦争をめぐって、東アジア歴史研究フォーラム、2014/11/7、ソウル(韓国)

倉員 正江、『日乗上人日記』に見る近世文芸関連記事の紹介、近世文芸研究と評論の会、2013/5/25、早稲田大学(東京都新宿区)

倉員 正江、許蘭雪軒詩の日本伝播 中国朝鮮女流詩人評をめぐって、韓国学国際シンポジウム、2012/10/8、ソウル(韓国)

倉員 正江、『今川一睡記』の典拠再考 『東照宮御遺訓』を中心に、近世文芸研究と評論の会、2012/1/21、早稲田大学(東京都新宿区)

長谷川 正江、水戸藩関係記録類に見える朱舜水関連記事について 儒教儀礼を中心に、朱舜水與東亞文明發展國際學術研討會、2010/11/6、台北(臺灣)

[図書](計2件)

倉員 正江 他、汲古書院、いくさと物語の中世、2015年8月刊行予定【再校責了】、『伽婢子』と軍書の影響関係をめぐって 『後太平記評判』『続太平記狸首編』を中心に西鶴に及び、22頁

倉員(長谷川) 正江 他、臺灣出版中心、舜水與近世日本儒學的發展、2012、談水戸藩儒教儀禮的相關記録文獻與朱舜水、309-338 【[学会発表] の中国語訳】

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

倉員 正江 (KURAKAZU, Masae)

日本大学・生物資源科学部・教授

研究者番号: 70307817

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: